

令和4年度 印西市民アカデミーだより 第5号

講座3:川めぐり+六軒散策

6月3日に予定していた本講座ですが悪天候のため延期し、7月15日(土)に実施しました。猛暑が心配されましたが、薄曇りで風が吹いていたために快適な船旅となりました。コースは、第1発着場(印西市立中央公民館裏)～弁天川(弁天堀)～手賀川～亀成川(入口)～手賀川～六軒川(六軒堀)～第1発着場の約1時間の行程です。水面に近い目線で見る景色は新鮮で、水辺に住む水鳥等を観察しながら船が進んでいきます。手賀川に入ると川幅が大きく広がり発作地区の広大な水田地帯の向こうには千葉ニュータウン地区の高層ビル群が見えます。発作橋付近には数十羽のコブハクチョウが生息しており優雅に泳ぐ姿を観察できます。六軒川の両岸には、石を積み上げた岸壁跡も残っています。このコースの隠れた魅力は、11本もの橋「六幸橋、弁天橋、六軒水神橋、弁天川橋梁(JR成田線)、弁天水管橋、(無名橋)、弁天大橋、関杵橋、六軒大橋、六軒水管橋、手賀川橋梁(JR成田線)、六軒橋」を真下から見るという体験を味わえることです。タイミングが合えばJR成田線の電車を下から見ることができます。ちょっと注目したいのが、名前のない橋(無名橋)に使われている橋桁の鉄骨にペイントされた「八幡製鉄所」の文字。歴史を感じます。

下船後、徒歩で六軒地区を散策しました。この地区は、江戸時代の利根川の東遷に伴い、利根川と手賀沼の接続地として大勢の人と物が行き交い大いに商業が栄え「江戸の台所」と言われました。明治時代には、軽工業が発達し、船橋(市)に匹敵する商都として大いに賑わいました。「六軒に行けばないものはない」と言われるほど様々な職種の商店が並んでいて、映画館やカフェもありました。

六軒の鎮守は、水神社と巖島神社の二社合祀で、通常は弁天様と呼ばれて親しまれています。巖島神社は、六軒の開拓に携わった宮島勘右衛門が安芸(広島県)の宮島より勧請したものとされています。当日は、巖島神社の例祭日にあたり、運よく神社前におかれた神輿をまじかで見ることができました。また、境内には、六軒出身の第24代横綱「鳳谷五郎」の立派な碑が建っています。帰路、六軒橋付近を通ったとき、ウナギを焼く香ばしい匂いが漂ってきました。何故か往時の華やかな六軒の風景が浮かんできました。



船上での♪印西音頭♪熱唱!



1年を通して観察できます!



まじかで見える神輿は迫力満点!



横綱の輩出は郷土の誇り!!



神事を補佐する白丁